

現場船員からの内航教育提案

— 独立行政法人 航海訓練所に提出 —

全日本内航船員の会 事務局

(独) 航海訓練所が「内航船員」育成に向けた教育内容を検討

独立行政法人航海訓練所が内航船員育成にあたっての教育内容、それに沿った新造船の構造・設備などについて意見を求めているという情報が入り、当会はインターネットを通じて現場船員から意見、提案を募り、そのまとめを提案書として訓練所あてに提出しました。(平成 22 年 4 月 30 日)

6 月 24 日には、航海訓練所本部（横浜第二合同庁舎）にて岡野良成理事長と面談する機会を得て、現場内航船員からの新人育成内容の要望と当会の取り組みについて説明しました。

以下が提出内容です。

平成 22 年 4 月 30 日

「独立行政法人 航海訓練所の新内航船員教育」に関する 内航現場の意見、提案のまとめ

全日本内航船員の会

現場内航船員の意見を集め、内航船員育成に関する意見や提案をまとめました。

(現在、船員ネットワーク参加者 145 名)

1. 航海科教育について

訓練の内容は、船の大きさや船種で異なるだろうという意見が多数の中、以下のような意見が上がりました。

(スタンバイ訓練)

- ・一人か二人で行うロープスタンバイの練習
- ・レッド投げの練習
- ・ウインドラスやムアリング機器類の操作

一日2ポートの合間に痛んだホウサをカットして、新たなアイを作っておけるくらいまでは訓練で可能だろうという意見もありました。

(全般)

- ・ 荷役配管を自分でたどるくらいの感性を教育しておいてほしい
- ・ 船内各部の名称を覚える訓練
名称が分かっていると乗船勤務後の仕事の覚えが早い。

(操船 舵取り)

- ・ 実際に舵を自由に切って、船舶の運動性能や船体の動きの特徴を体感しておくことが大切だと思う
- ・ アテ舵の体感などから、船員の仕事が職人業であることを感じておいてもらうことが操船上大事である
- ・ QMあたりの立場で、航海士の操船を見たり話を聞いたりする訓練
- ・ 指示された操船の命令にただ応える訓練ではなく、いつかは自分が決断するようになることを訓練生自身が意識するように扱う教育してもらいたい

(操船 避航技術)

- ・ 漁船の種類と避航法の勉強
漁船を知ることが、漁船の多い海域での安全避航の第一歩となる。
- ・ 航海計器の用途と使用法の勉強

2. 機関科教育について

訓練所で機関部の仕事を教えたところで、応用が利かなければ意味がない。工具の名前を確実に覚える訓練に一番期待したいという意見も多くありました。

(掃除の仕方)

- ・ 掃除は機械トラブルの早期発見を目的にしていることを明確にした指導が必要である。
エンジンルームの各機器を理解しながら、どのポイントを注意してチェックすべきか等、具体的な訓練が必要である。

(メンテなど)

- ・ 道具、備品類の名前を確実に覚える訓練
乗船勤務後、手伝いたい気持ちだけでは何も協力できないし学べないことになる。
- ・ 燃料油、潤滑油、冷却水などの配管は自分でたどるくらいの責任意識を持つ教育をしてほしい

(トラブル対応)

- ・機械トラブル時に応急処置する仕方の勉強
外洋航海と違って入港まで時間がありません。最低限船を動かし続ける応急処置的回避の訓練が一番の助けになるはずです。

(座学分野)

- ・フローチャートや結線図を読めるよう教えてほしい
内航船は近海を航行しているので備品をすぐに手配できます。大事なのはメーカーに正確な故障箇所を伝えることです。
- ・今後は電気系も重要になってくると感じるので教育内容に盛り込むべき

(技能分野)

- ・乗船してからでは練習の機会が減っている溶接、グラインダ等の作業を、揺れる船上で体験する機会を与えてあげてほしい

3. 荷役設備について

訓練生が荷役に関心を持ってもらうために、特に「どの船種で訓練することが的確なのか」についての意見が多くでした。

- ・セメントタンカー
- ・オイルタンカー
- ・RORO

以上が候補にあがりました。

結果は、セメントタンカーが練習訓練に向いているという意見が多数でした。理由は以下のとおりです。

- ・計算もするし、ドラフトも読むから
- ・荷役装置があり積み上げもするから

タンカーで荷役装置が完全自動化されたスーパーカーゴについての意見もでした。

- ・スーパーカーゴを使えるようになるには配管図面を確実に読めることが必要となりますが、今の船員でこれしか使ったことのない人の場合は計算ができない人もいます。この応用力のなさが、スーパーカーゴの未来の障害になっていると思うので、今後の船員育成の内容に盛り込んでもらいたい

4. 訓練の仕方についての意見

- ・内航海運向けの教育では、命令に応えるだけ訓練ではなく、訓練生が積極的に質問、提案をする教育が必要だと思う
- ・内航船内は全員が少数の船舶職員であるため、役職の上下関係の徹底だけでなく、協力して問題解決にあたれるような人間関係が大切となります。一人ひとりと面談をするくらいの教官と訓練生とのかかわり方を検討してもらいたい。

5. その他の要望

- ・熟練の内航経験者を入れて教育するべきだと思う
- ・訓練所の教官と内航経験者が歩み寄ることが内航教育実現に不可欠だと思う

特別に、あまりに多数で無視できない意見が、「挨拶ぐらいは気持ちよくしてほしい」、「積極的に好奇心を持って仕事に励んでほしい」等といった「常識に関する問題」でした。

訓練所教育に求めるべき要望ではないかも知れませんが、船員職業は長時間共に船内共同生活をする特殊な環境であるため注視する必要があると判断します。

以上

(了)

船員の皆様ご協力ありがとうございました。

全日本内航船員の会は、私たち船員自身の声を社会へ発信し、海洋国としての社会的な発展と日本人船員・海事産業の明るい未来を目指します。今回ご参加できなかった内航船員の方、お気軽に当会までご連絡ください。